

作業會計法中改正法律案外一件

委員會會議錄(筆記)第一回

委員會成立

本委員ハ大正十年二月十日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

- 龍野周一郎君 高野 毅君 田邊 熊一君
坂本素魯哉君 三好 徳松君 木下成太郎君
田中 萬逸君 田中 善立君 矢島 專平君

龍野周一郎君 高野 毅君 田邊 熊一君
坂本素魯哉君 三好 徳松君 木下成太郎君

年長者龍野周一郎君投票管理者トナル
投票管理者(龍野周一郎君)ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

高野毅君ハ投票ヲ用キス龍野周一郎君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ委員長ノ指名ニ一任スヘシトノ意見ヲ提出ス
投票管理者(龍野周一郎君)ハ高野君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ自己ハ委員長ニ當選シタル旨ヲ宣告ス
委員長(龍野周一郎君)ハ高野毅君ヲ理事ニ指名シ散會ヲ宣告ス

于時午前十時三十五分

會議

大正十年二月十五日午前十時四十分開議

出席委員左ノ如シ

- 龍野周一郎君 高野 毅君 坂本素魯哉君
木下成太郎君 田中 善立君 矢島 專平君
出席政府委員左ノ如シ

- 大藏書記官 佐々木謙一郎君
海軍主計中將 志佐 勝君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
作業會計法中改正法律案

法律案

委員長(龍野周一郎君) 是ヨリ開會致シマス、作業會計法中改正法律案外一件、此二案ハ關聯ヲ致シテ居リマスカラ、質問應答ハ二案共ニ致ス方ガ便利ト考ヘマス、先ヅ政府委員ヨリ提出ノ理由ニ付テ大體ノ御説明ヲ求メマシタ方ガ都合ガ宜シト思ヒマスカラ、其順序ニ致シマス
○木下成太郎君 政府委員ノ説明ニナル事ニ付キマシテ

ハ、成ベク詳細ニ御説明ヲ願ヒタイ、本案ハ申ス迄モアリマセヌガ、國家ノ施設ノ上カラ見マシテ、重大ナモノト思ヒマス、依テ本案ノ取扱ノ上ニ於テモ、最モ慎重ニ取扱ハナケレバナラヌヤウニ思フテ居リマス、隨テ自分等カラ御尋ヲ申上テ居リマスモ、成ベク細ヨリ微ニ入テ御尋ヲ見タイト思フベテ置キマス

○委員長(龍野周一郎君) 政府委員ニ其事ヲ私カラ要

一應御説明ヲ申上ゲマス、印刷局ノ据置運轉資本ノ増加ヲ要スルト云フ事ニ付キマシテハ、過日本會議ニ於テ大藏次官ヨリ大體御説明申上ゲテアルコトデアリマス、尙ホソレヲ敷衍致シテ詳細ニ御説明申上ゲテ置キタイト思ヒマス、御承知ノ通り大正四年以後漸次物價ガ騰貴シテ參リマシテ、從來印刷局ノ据置運轉資本ハ、四十七萬圓デゴザイマシタ所ガ、四年、五年、六年位迄ハ、物價ノ騰貴モ左程甚クコザイマセヌガ爲メニ、且ツ印刷局デ印刷致スル左程兌換券、國債證書、收入印紙並ニ其他ノ印刷物等モ、餘リ數量モ増加スル程度ガ著シクゴザイマセヌガ爲メニ、四十七萬圓ノ運轉資本デドウヤラ維持シテ參リマシタゴザイマシタ、大正六年以後物價ノ騰貴ガ急激ニ増加致シマシテ、且ツ印刷局デ印刷致シマス、諸種ノ物品、又兌換券等モ、急激ナル増加ヲ致シマシタ爲メニ、甚シク運轉資本ノ缺乏ヲ感ジマシテ、大正六年度ニ於テハ、年度末ニ於テ約二十萬圓、大正七年度ニ於テハ約三十萬圓、大正八年度ニ於テハ約六

十萬圓ト云フヤウナ多額ノ運轉資本ノ不足ヲ年度末ニ於テ生ズルヤウナ次第ニナリマシタ、ソレ等ノ場合ニ、運轉資本ノ増加ヲ印刷局デハ豫メ希望シテ居リマシタガ、未ダ物價ノ變動ガドウ云フ風ニナルカ、或ハ物價ガドノ位ノ程度迄騰貴スルカ、或ハ又兌換券其他ノ印刷物ノ數量モ、或ハ戰爭デモ終ツタナラバ、モソト減少スルカモ知レヌト云フヤウナ考カラシテ、成ベク運轉資本ノ増加ヲ計畫致シマセヌデ、他ノ方法ニ依テ之ヲ補テ行クト云フ方針ヲ執リテ、今日ニ至リタノデゴザイマス、然ルニ戰爭ガ熄シテ、漸次多少ノ物價ノ下落ハゴザイマシタケレドモ、左程著シクアリマセヌノミナラズ、將來ニ向テ印刷局デ印刷致シマスル兌換券、國債證書、收入印紙、郵便葉書ト云フヤウナ主ナル印刷物ハ、益

其數量ガ増加スル一方デゴザイマシテ、現ニ本年度ニ於キマシテモ、印刷局ノ設備擴張費ト致シマシテ、三箇年繼續デ三百萬圓ノ設備擴張ノ爲メノ經費ヲ要求致シテ居リヤウナ次第デゴザイマシタ、ソレガ本年度ニ於テハ、其年額百萬圓ニナリテ居リマス、斯ノ如ク累次設備ヲ擴張致シマシテ、其數量ニ應ズルコトニ致シマスル、此上物價ガ下落致シマシテモ、運轉資本ニ剩餘ヲ生ズルコトハ、決シテアルマイ、又此上不足スルコトモ、ドノ位不足スルコト云フコトニ就テ考ヘテ見マスルニ、假令從來執リ來テ運轉資本ヲ補足スル方

法ヲ執リテモ、尙運轉資本ノ増加ヲ要スルト云フコトヲ考ヘマシテ、茲ニ五十三萬圓ヲ増加致シマシテ、百萬圓ノ据置運轉資本ニ致シタイト考ヘテ居リマス、五十三萬圓ノ基礎ト申シマスルノハ、先刻申上ゲタヤウニ、大正八年度ニ於テハ六十一萬圓ノ不足ガゴザイマシタ、其際ニ其不足ノ中デ支拂未済ニ屬スルモノガ七萬圓アリマスルノ、實際不足ヲ生ズルモノハ五十三萬圓デアリマス、其五十三萬圓ハ大正八年度ニ於テハ主トシテ日本銀行等ヨリ前受金ヲ致シマシテ、其不足ヲ補テ居リマシタ、如何ニ民間ノ會社、且ツ資本ノ豐富ナル會社ト致シマシテモ、政府ガ渡サヌノニサウ多額ノ前受金ガ四十萬、五十萬年々不足スルヤウナコトハ、官ノ經營スル印刷局ト致シマシテ、餘リ面白イ事デモアリマセヌシ、又斯ノ如ク無理ナル希望ヲ日本銀行等ニ申入レルコトニナルト、多少其間ニ富豪ノ要望ニモ應テ應ジナケレバナラ

又缺點ガアリマスルノ、成ベクサウ云フ事ノ無イヤウニ將來多少ノ前受金ハ已ムヲ得マセヌケレドモ、成ベク其額ヲ少クシタイト云フ希望デ、五十三萬圓ヲ増額シテ次第デアリマス、或ハ民間ノ方ノ前受金ヲ受ケナクテモ、多數製造スル政府ノ製品ニ於テ前受金ヲ取ララウカテラウヂヤナイカト云フ御疑ガアルカ知レマセヌガ、常ニ政府ニ於テハ前受金ハ年度内ニ致シテ居リマス、年度末ノ三月ニナルト、政府ニ引渡サナイ限り政府ハ前金拂ヲシタコトハゴザイマセヌ、常ニ前受金ハ必ズ一度年度末ニ於テ致シテ居リマシタ、政府ノ前受金ニ依テ經營シテ行クトハ困難デアリマス、ソレデ已ムヲ得ズ五十三萬圓運轉資本ヲ増加スルコトニナリマス、尙ホ詳細御質問ガアレバ御答シマスガ、大體ノ説明ハ以上デ盡キタイト思ヒマス
○志佐政府委員 海軍省關係ノ作業會計法中改正ノ點ニ就テ一應説明ヲ致シマス、此法律案ノ第一條ニアリマス所ノ海軍採炭所ノ海軍燃料廠ニ改メマスル點ニ就テ、先ヅ

以テ申上ダケイト思ヒマス、從來海軍ニ於キマシテハ、福岡縣下新原ニ於テ經營致シマスル所ノ採炭事業ガゴザイマス又山口縣下徳山ニ於テ經營致シマスル煉炭製造事業ガゴザイマス、其二ツノモノヲ併合致シマシテ向ホ新タニ製油事業ヲ加ヘマシテ、此三ツノ事業ヲ海軍燃料廠ニ於テ經營致シタイト考案致シタノハ、此法案提出ノ主ナル理由デアリマス、御參考ノ爲メニ、書物ニ致シマシテ御手許ニ差上ダゲテゴザイマスル參考書ニ於テ、大要御承知ノコトデアリマスルガ、尙ホ詳細ニ互リテ申上ダケイト思ヒマス、此燃料廠ニ於テ將來經營シヤウト致シマスル所ノ煉炭並採炭ノ事業ハ、大體是迄實行シテ參リマシタル所ノモノト變リマセヌ、唯今モ申上ダケルヤウニ、新シク附加ヘマシタル所ノ製油事業ノ從來無カッタモノヲ、今後燃料廠ニ於テ實行シヤウト云フノデゴザイマスカラ、申上迄モナク此製油事業ハ、海軍艦船用ノ燃料シテ將來益、需要ヲ多クシテ參リマスル所ノ重油ヲ製造シヤウト云フノデゴザイマス、御承知ノ通りニ内地産ノ油ハ我が艦船ノ燃料トシテ使用スル所ノ數量ガ間ニ合ヒマセヌガ爲メニ從來海軍ニ於キマシテハ色々研究ノ末ニ、已ムテ得ズ國外ヨリ之ヲ輸入シ、艦船ニ適當スル所ノ重油ヲ製出スルト云フコトニシナケレバナラヌト云フコトニ歸著致シマシタルノデゴザイマス、是ヨリ事業ノ大體ニ就テ申上ダゲマス、採炭ノ事業ハ先程申上ダケマシタヤウニ、新原ノ採炭所ニ於テ是迄ヤツテ來テ居リマスル通りノ事ヲ、今後實行シヤウト云フノデゴザイマスカラ、別段變テ事ハゴザイマスガ、唯數量ニ於テ約年額五十万噸ヲ採掘シヤウト云フ計算ヲ立テマシタコトガ、從來ヨリ變テ所デアリマス、煉炭事業ノ方ハ海軍採掘ノ石炭及部外ヨリ買入レマシタル所ノ石炭ヲ原料ト致シマシテ、從來通りニ徳山ニ於テ製造致スノデゴザイマス、大正十年度ニ於キマシテハ、約三十四万噸ノ見當デ製造シヤウトシテ居リマス、而シテ此製造高ハ漸次増加致シマシテ、七十五万噸迄ニ至ル豫定デアリマス、製油事業ノ方ハ亞米利加若クハ「ボルネオ」等ヨリ原油ヲ輸入致シマシテ、サウシテ之ヲ完全燃料トシテ適當スル所ノ重油ニ拵ヘ上ダケルト云フコトニナリマスルノデ、其生産力ハ大正十年度ハ先ヅ十萬噸ノ見當デアリマス、漸次増加シテ二十萬噸ニ至ラシムル豫定デアリマス、是等ノ事業ノ經營ニ付キマシテハ當然是ハ一般會計ニ依ラズシテ、特別會計ニ依ルヲ適當ト認メマシテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス故ニ之ヲ特別會計ニ依ルト云フコトニ致シマスレバ、二十三年法律第十七號作業會計ノ規程ニ依ラナケレバナラヌノデスカラ、此作業會計ニ依ルト云フコトニナリマスレバ、固定資本、運轉資本ト此二ツノモノヲ別ケマシテ、サウシテ作業上ノ收入並ニ附屬雜收入ヲ基本ト致シマシテ、作業上ノ

費用ニ充テルト云フ計畫ニナリマス、歳出額ハ豫算ノ定額内ニ於テ、實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過シテハナラヌト云フコトニ定メマス、又固定資本ノ維持修理並ニ補充ハ、燃料廠ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨致シマシテ作業上ノ收益及固定資本ニ屬スル所ノ物件ノ費拂代金ノ總テ一般會計ノ歳入ニ編入スルト云フ手續ニ取計ヒマス考テ居リマス、次ニハ此資本ノ事デアリマスガ、資本ハ固定資本トシテ土地、建物、鑛區、機械其他重要ナル器具ヲ以テ之ニ充テマシテ、從來海軍採炭所及海軍煉炭製造所ニ於テ使用致シテ居リマス所ノ物ヲ、初年度即チ大正十年年度ノ固定資本ト定メマシテ、漸次將來増加スル物ヲ之ニ併算ヲ致スト云フコトニナリマス、初年度ノ固定資本額ハ七百四十九万餘圓トナリ居リマス、据置運轉資本ノ總額ハ二百萬圓ト定メマシテ、大正九年年度ノ末ニ現在シテ居リマス所ノ海軍採炭所ノ据置運轉資本十萬圓ヲ之ニ充テマシテ、其不足致シマス所ノモノハ、大正十年年度ニ於テハ七十萬圓ヲ繰入レ、漸次十二年度迄ノ間ニ二百九十萬圓マデ増加致シマシテ、サウシテ此總額二百萬圓ニ達シマスル計算ヲ立テマシタ、而シテ此据置運轉資本ノ事デアリマスガ、是ハ成ベク事業ノ經營ノ側カラ申シマスルト、多ク資本額ヲ得マス事ガ最モ好都合ニ考ヘテ居ルノデゴザイマスレドモ、單リ事業ノ經營ノミカラ打算致シマシテ實行スルト云フコトニ參リマセヌ、一般ノ財政上ノ關係モ考慮シナケレバナリマセヌノデゴザイマスカラ、二百萬圓ト云フモノハ、餘リ適當ナル運轉資本額ト云フコトハ申サレマセヌガ、此調節ノ方法トシテハ、別ニ法律案ヲ提出シテ居リマス所ノ前金拂ノ制度、即チ一般會計ヨリ燃料廠ニ生産品代價ノ前受ヲスルト云フ方法ヲ執リマシテ、サウシテ此二百萬圓ト合セテ運轉資本ノ取扱ノ圓滑ヲ期シタイト云フ考デアリマス、前受金ハ貯藏材料調辦ノ爲メニ要スルモノデアリマスカラ、大正十年度ニ於キマシテハ、先ヅ約百五十萬圓ノ見當デアリマス、運轉資本ノ二百萬圓ハ、貯藏材料以外ノ經費ニ充ツル所ノ運轉資本デアリマス、此兩方ノ資本額ニ依テ運轉ノ基礎ヲ圓滑ニスルト云フ計畫ヲ立テルトコトニナリマス、其次ニ大正十年度ノ歳入歳出ノ豫定ヲ申上ダゲマス、燃料廠ノ歳入總額ハ二千五百九十七万餘圓デアリマシテ、歳出總額ハ二千五百二十五万餘圓デアリマス、歳入ハ先程モ申上ダケマシタ生産費費拂代及附屬雜收入ヨリ成立ツモノデアリマシテ、歳出ノ方ハ材料費、職工、人夫賃、採炭及開鑿費等ノ費目ヨリ成立ツコトニナリ居リマス、次ニハ益金ノ事デアリマス、此益金ハ大正十年年度ニ於テハ約七十萬圓ノ豫定デアリマス、其計算ノ大要ハ、先ヅ歳入ニ於キマシテ二千五百九十七万餘圓トシマシテ、歳出ヲ二千五

百二十五万餘圓ト致シテアリマス爲メニ、差引七十二万三千餘圓ト云フ差額ヲ生ジマスカラ、之ヲ以テ益金ノ計算ヲ立テル豫定デアリマス、此益金ハ固定資本、運轉資本ノ兩方ニ對比致シマシテ八分七厘餘ノ割合ニナリ居リマス、之ガ御手許ニ差上ダケマシタル書類ニモゴザイマスル所ノ作業會計法改正ノ理由ヲ大體申上ダケテ積リデアリマスガ、尙細カニ立チ入ッテ御話ヲスルヤウニト云フコトモゴザイマシタカラ、少シ申上ダケテ見タイト思ヒマス、此燃料廠ノ事業ノ計畫ハ、凡ソ大正十三年度ニナリマスル所ノ先程モ申上ダケタヤウニ、採炭量製油ノ數量ガ殖エテ參リマスルガ、差當リ此十年年度ノ製造高ハ、先程モ申上ダケマスル如ク若干減少シタル數量ニナリ居リマス、デ此十年年度ニ於キマシテ歳出ヲ要シマスル所ノ内譯ノ經費ヲ申上ダケマスル所、年額ニ致シマシテ材料費ガ千二百四十餘萬圓、材料費以外ノ經費、即チ職工人夫賃トカ、採炭開鑿ニ要スル費用等ノ見積リヲ致シマシタモノガ千三百二十九万餘圓トナリ居リマス、之ヲ月額ニ直シマスルト、材料費ガ百一十餘萬圓、材料費以外ノ經費ガ百十四万餘圓ト云フコトニナリマス、先ヅ以テ此材料費其他ニ要スル所ノ經費ハ右ノ通りデアリマシテ、又運轉資本ヲ決定スルノニハ、唯今申上ダケマシタル所ノ材料費ト、材料費以外ノ經費トニ互テ之ヲ考ヘナケレバナラヌト云フコトニナリマス、第一此點ニ付テ申上ダケテ見タイト思ヒマスガ、此材料費デス、材料費ハ採炭事業即チ新原ノ從來ノ採炭所ニ於テ經營シテ居リマスル所ノ石炭採掘事業ニ付キマシテハ、坑木其他石炭坑ノ採掘ニ要スル所ノ物品類ニ必要ナル貯藏品ガアリマスルガ、別段此外ニ特ニ要スル所ノ貯藏材料ト云フモノハ、此採炭事業ニ限ッテハ無イノデゴザイマス、併ナガラ煉炭事業、此煉炭事業ニ至リマスル所製造ニ配合ヲ要スル所ノ各種ノ石炭ヲ三箇月カ若クハ四箇月分常置貯藏シテ置カネバナラヌト云フ必要ガアリマス、此煉炭製造ニ要シマスル石炭ノ原産地ハ、朝鮮、支那、佛領印度及内地ニゴザイマシテ、船腹及輸送機關ノ關係ヲ考ヘマシテ、ドウシテモ三四箇月間ノ貯藏ヲシテ置キマセヌト云フト問斷ナク事業ヲ經營スルト云フコトガ出來マセヌカラ、之ハ特ニ若干ノ貯藏材料ノ必要ヲ認メテ居ル次第デアリマス、又製油事業ニ付キマシテモ煉炭事業ト同ジヤウニ三箇月分位ノ貯藏材料ガ無クテハナラヌ故ニ、國外ヨリ取寄セマスル所ノ原油ヲ常時若干ノ貯藏ヲ要スルト云フコトニナリマスルカラ、之ガ爲メニ貯藏材料ノ必要ヲ認メテ居ル次第デアリマス、而シテ此原油ノ産地ハ、先ヅ今日ノ所デハ蘭領「ボルネオ」並ニ南北亞米利加ノ積リデアリマス、ソレカラ此材料以外ノ經費デス、材料以外ノ經費、即チ先程申上

ゲマシタ職工人夫賃ダノ俸給ダノ、即チ人體給與ニ屬スルモノヲ除キマシテ、一箇月分ノ資本ナラバ、之ヲ運轉ヲスルコトガ出來ル、物品費ノ側デハ、三箇月乃至六箇月分ノ購入ヲスルダケノ餘裕ガ無イト困リマスカラ、ソレガ爲メニ購買者ノ利益ヲ事業者ニ於テ之ヲ必要ト認メル場合モゴザイマスガ、大體ニ於テ一箇月ノ經費ヲ以テ運轉シ得ル事ニ致シタイト考ヘテ居リマス、唯今申上ゲマシタル計算カラ運轉資本所要額ノ要領ヲ大體申上ゲマスト云フト、十年度ニ於キマシテハ運轉資本トシテ要シマスルモノハ、約四百萬圓モ掛ルカト思ヒマス、十一年度ハ尙ホ増加シマシテ、事業ノ經營ノ増加ニ伴ヒマシテ、若干ノ増額ヲ要シマスカラ、之ガ五百萬圓見當ニナリ、十二年度ハ尙ホ増加シテ六百萬圓、七百萬圓見當ニナルト云フコトデ、漸次多少ノ増加ヲ致ス豫定デゴザイマス、右ノヤウニ此運轉資本ハ二百萬圓ト決メタニモ拘ラズ、甚シキ多數ヲ要スルコトニナル計算ヲ致シマシタケレドモ、成ベク財政上ニ累ヲ及ボサナイト云フ方針ニ基キマシテ初ノ二三年度ニ於キマシテハ、軍事實費ノ經營費ニテ現ニ一般會計ニ於テ今日經營シテ居ル所ノ煉炭製造所ガ持テ居ル所ノ材料ヲ當分利用スルコト云フ途ヲ考ヘ、又十三年度頃ニナリマスル、六百萬圓見當ノ貯藏材料ガ年度ヲ通ジテ固定シテシマヒマスカラ、成ベク運轉資本ニ影響ヲ及ボサシメナイ方針ヲ取リマシテ、此金額程度マデハ貯藏材料ニ對シテ前受金ノ手續ヲ以テ調節ヲ圖ルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス、而シテ此運轉資本額ヲ二百萬圓ト決メマシテ、初メ三箇年度ニハ毎年七十萬圓ノ益金ヲ出シマシテ、サウシテ一般ノ財政上ニ累ヲ及ボサズ遂ニ二百萬圓ノ資本ヲ得ルト云フ見込デ居リマスガ、此益金程度ノ金額ヲ約十二年度迄ニ組入レル計數ハ、採炭所運轉資本ヨリ引繼グ所ノ十萬圓ト、十年度ノ一般會計ヨリ組入レル七十萬圓ト合セテ、八十萬圓ガ十年度ノ運轉資本ト云フコトニナリマス、十一年度ガ七十萬圓、十二年度ガ五十萬圓、合セテ二百萬圓ト云フ計數ニナル次第デゴザイマス、次ニ此運轉資本ノ運轉トシテ申シマフルト、十年度ニ於キマシテハ、運轉資本額ハ先程申シマサウニ約四百萬圓ヲ要スル、此四百萬圓ニ對シテ此ニ定メテアリマスル所ノ十年度ノ運轉資本額ハ八十萬圓デアル、又前受金トシテ豫定シタル所ノモノハ百五十五萬圓デアリマシテ、貯藏ノ經營費ノ品物ヲ以テ一時利用シテ是ガ調節ヲ保ッテ行カウト云フモノガ二百萬圓ゴザイマスカラ、此四百萬圓見當ノモノガ此歳出ノ二千五百萬圓ニ對スル運轉ノ回数ノ割合ガ、三十一回運轉ヲスルト云フコトニナリマス、十一年度ハ漸次減少シテ二十回、十二年度ニ於キマシテ八十八回ト云フ運轉回数ヲ見ルコトニナリマス、是ハ餘リ大シテ

必要トハ思ハレマセヌガ、序ニ大體ノ事申上ゲテ置キタイト思ヒマスノハ、毎年度ノ益金ノ調デス、十年度ニ於キマシテハ、毎度ウルサク計數ヲ申上ゲテ相濟マセヌガ、歳入豫定額ガ二千五百餘萬圓、翌年度ヘノ持越額ガ二十三萬圓、此合計ガ二千六百餘萬圓ニナリテ居リマス、歳出ノ豫定額ガ二千五百四十三萬圓——前年度ヨリ持越金ガアリマセヌカラ計二千五百四十三萬圓、サウシテ益金ガ七十二萬圓出ルト云フ勘定ニナリテ居リマス、又製造高ノ豫定ハ別ニ此額ヲ申上ゲマスト、此採炭ノ量額ガ十年度ヨリ十三年度マデ毎年五十四萬噸トシテゴザイマスガ、煉炭ノ製造高ガ十年度ハ三十四萬噸デ、十一年度ガ五十五萬噸、十二年度ガ六十五萬噸、十三年度ガ七十五萬噸ト云フ製造高ヲ豫定シテアリマス、ソレカラ油ノ製造高ハ、十年度ガ十萬噸、十一年度ガ十五萬噸、十二年度ガ二十萬噸、十三年度モ尙ホ二十萬噸ト云フコトヲ豫定シテゴザイマス、是ガ大體ノ說明ヲ申上ゲテ積リテアリマスガ、尙ホ盡サマル所ハ御尋ニ依テ十分御了解ヲ得ルヤウニ御答致シタイト思ヒマス

○木下成太郎君 御尋ヲシテ見タイト思フ、本案ノ提出理由ニ依リマスル、新ニ海軍燃料廠ヲ設ケ事業ヲ經營スルノ必要云々トアリマスガ、詰リ海軍燃料ノ得失ト云フ事ニ就テ、根本解決ヲ此方法ニ依テ御付ケニナルト思フノデアリマス、就キマシテハ惟フニ英國ノ「三」シ「政策」、及米國ノ「三」エ「政策」、此政策ヲ維持シテ居ル、而シテ我が國是ガ現在ノ通りデアル以上ハ、國防ノ上カラ大ナル所ノ考ヲ持テ掛ラナケレバナラヌコトハ、申上迄モナイノデアリマス、隨テ八八艦隊ガ完成セラレ、其場合ニ於テハ勿論此準備ハ、是ガ十分ナ事ダラウト思フノデアリマス、一朝緩急事アル場合ニナリマシタラバ、此御計畫ニ依テ十分デアルデアリマセウカ、之ガ第一ノ御尋デアリマス、第二ニ山口縣ノ徳山及福岡縣ノ新原ニ於ケル煉炭所及採炭事業其他製油等ヲ一括シテ、サウシテ燃料廠ト云フモノヲ創設セラレ、サウデアリマスガ、第二ニ、御說明ニ依リマス、更ニ山口縣ノ大嶺ニ於ケル海軍採炭ト云フモノガアル、サウ致シマスル、第一ノ新原ト徳山ト云フ所ニ採炭所ヲ持テ居ラルヤウニ思ハル、ノデアリマス、ドウ云フ譯デ此新原ノ採炭事業ト云フモノダケガ此燃料廠創設由來ノ第一ノ中ニ含マレテ居ナイノデアリマスガ、大嶺ト云フモノト新原ト云フモノハ、字ノ違ヒデ、同一ノ所デアスウ云フ工合ニ分レテ居ルノデアリマスガ、ソレガ第二ノ御尋デアリマス、ソレカラ第三ノ御尋ハ、購買炭ヲ原料トシテ云々ト云フコトガアリマス、此購買炭ト云フモノノ中ニ、外國カラシテ御取リナリマスノハ能ク判リマスガ、今ノ御說明デハ内地ト云フコトニナリテ居リマスガ、内地ト

云フノハ、内地ノ中ノ何處々々ノモノヲ原料トセラレ、ノデアリマスガ、ソレカラ第四ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマスノハ、重油ヲ製造スルニ付キマシテハ、是ハ原油ヲ今日ノ所デアリマシテ、サウシテ政府ガナサレテ居ル、別ニ石炭カラ重油ヲ採收ナサル所ノ御計畫ガアルノデアリマスガ、是ハ今日ノ所デアリマス、亞米利加及「ボルネオ」ノモノガ専ラニナリテ居ルヤウデアリマス、事ノ有リマシタ場合ニ於テハ、ソレハドウ云フ御準備ガアルノデアリマスガ、第五ハ此益金ノ勘定ノ中デ、大正十年度ノ益金約七十萬圓ト豫定シテアル、此七十萬圓ト云フ豫定ヲシテ居ラレマスル價格ノ標準ハ何カラ割出シニナリテ居リマスガ、此點ニ付テ御說明ヲ願ヒマス

○志佐政府委員 第一ノ御尋ノ燃料政策ノ根本義ニ付テハ、過日海軍大臣ヨリ本會議並ニ像算委員總會ニ於テ說明ガゴザイマシタ、ソレデ御承知下サルコト、考ヘマス、唯今ノ場合ニ、私ノ方デ御答出來マスルノハ、平時ハ先ヅ以テ是デ差支ナイトシテモ、戰時ハ是デ十分デアルコト云フ御問ニ對シテ、私ハ戰時ニ於キマシテハ、是デ十分デアルト云フ御答ハ致シ兼ネルノデアリマス、過日海軍大臣ヨリモ說明ガアリマシタ通りニ、成ベク平時ニ於テ國內ヨリ重油ノ如キハ取り得ルコトニシテ、サウシテ之ヲ貯藏シテ、戰時事變ニ際シテ手達等ノ無イヤウニ、十分計畫ヲ立ル考デアルト云フヤウノ意味ノ御答ガアリマス、十分計畫ヲ立ル考デアルト云フ當局トシテハ平時貯藏シテ、準備ハスルコトニ努メマシテ、戰時ノ急ニ應ジタイト云フ考デゴザイマス、第二ノ大嶺ノ御尋マシタ爲メニ、御尋ガ起ッタコトダト考ヘマスルカラ、尙ホ此ニ補足シテ置キマス、此大嶺ト云フノハ御承知ノ通りニ山口縣下ノ大嶺デゴザイマス、從來採炭所ノ採炭事業ノ一部トシテ、矢張福岡縣下ノ新原ト同様ニ炭山ヲ經營シテ居リマシタノデアリマス、今日ハ矢張海軍採炭所ノ一部ノ鑛區トシテ石炭採掘事業ヲヤテ居リマシタノデアリマス、此大嶺ノ矢張新原ノ炭山ト同時ニ燃料廠ノ經營ニ移ススト云フコトニ致シマスコトニナリマスガ、從來採炭所ノ採炭事業ノ一部トシテ新原及大嶺ト云フ二ツノ炭田ガアッタモノヲ、カラ飛ビ出シテ來タモノデナシニ、從來採炭所ノ採炭事業ノ一部トシテ新原及大嶺ト云フ二ツノ炭田ガアッタモノヲ、此際兩方トモ燃料廠ノ所屬ニ移ススト云フコトニナリマシタコトト御承知下サルヤウニ願ヒマス、第三ノ御尋ノ原料ノ購買ニ、内地ヨリ買フモノガ何デアルカト云フ御尋デゴザイマスガ、是ハ主ニ大嶺ノ炭山及新原ノ炭山ヨリ出マシタモノ、ソレカラ朝日炭ト云フノゴザイマス、之ノ内地ニ於テハ原料トシテ使フコトニナリテ居リマス、ソレカラ第四ノ御尋ノ製油ニ當テ原料ヲ國外カラ取寄セルト云フコトハ分ッテ、原油以外ニ何カ製油ノ方法ヲ考ヘテ居リハシナイカ、斯ウ

云フ見込ガアルカナイカト云フヤウナ御尋ト拜承致シマシタガ、ソレハ豫テ御承知ノ通りニ此低溫乾留ト云ウテ、石炭カラ油ヲ搾ル所ノ製造法ヲ研究致シテ居リマスガ、唯今ノ所デハ出來ルニハ出來ルト云フ見込ハ十分デゴザイマスケレドモ、ソレガ果シテ經濟上有利デアラウカ、又十分ソレダケノモノデ間ニ合フヤウナ物ニナルカドウカト云フ事ハ、未ダ今日ノ所デハ實際ニ於テ煉炭製造所ニ於テ熱心ニ調査研究中デアリマシテ、近キ將來ニ於テ何等カノ效果ヲ御耳ニ入レルコトガアラウト思ヒマス、ソレカラ此益金ヲ上ゲマス所ノ價格ハ何デアアルカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ大體斯ウ云フ計算ヲ立テ、居リマス、煉炭、重油其他ノ經營ノ結果ト致シマシテ、煉炭ハ一種煉炭ト二種煉炭トノ二種類ニ區別サレテ居リマス、第一種ノ方ハ單價ガ一噸三十四圓デ出來上ルノデアリマス、ソレカラ二種ノ煉炭ノ方ハ單價ガ二十六圓デ出來上ル、之ニ運賃ヲ加ヘマシテ、サウシテ相當ノ費用ガ決定サレルノデアリマスガ、先ツ製造シ得ル所ノ單價ハ今申ス通りデアリマス、輕油ノ方ハ一噸ニ付二百圓、重油ノ方ハ六十五圓、塊炭ノ方ハ一噸十八圓、雜用塊炭ノ方ハ十五圓五十錢、粉炭ハ十四圓ト云フ計算ニナテ居リマス、勿論是ハ唯今申シマスヤウニ運賃ハ入テ居リマセヌ

○坂本素魯君 私人大體ニ就テ質問致シタイト思ヒマス、私ノ御尋スルノハ石油ノ事デアリマスガ、石油ノ問題ニ就テハ私ガ申ス迄モナク、殆ド帝國ノ存亡ニ關スル重大ナル問題ト存ジマシテ、四十三議會ニ於テ私ハ石油政策ニ關スル建議案ヲ提出致シマシタガ、其當時當席ニ居ラレマスル高野君ヨリモ、石油ノ事ニ就テ燃料調査會ノ建議案ヲ提出サレタノデアリマスガ、當時ハ此兩案ヲ一括致シマシテ委員ニ付託トナタノデアリマス、サウシテ委員會ノ結果、兩案ノ名稱ヲ變更シマシテ、政府ハ速ニ燃料政策ヲ樹立スベシト云フ、斯ウ云フ建議案ニ修正ヲ致シマシテ、衆議院ヲ全會一致ヲ以テ通過致シタノデアリマス、當時私ガ報告ヲ致シマシタ時ニ附加ヘテ居リマスル通り、燃料ノ政策トアリマスルガ、主タルモノハ石油ノ問題デアアル、其石油政策ノ樹立デアアル、此事柄ニ就テ私ハ其當時ドウシテモ我國デ自給自足ノ出來ルモノデアラナラバ、其方針ニ依ラナケレバナラヌト云フ意味ニ於テ、日本民間ノ油田ノ開發ヲ政府自身ガ御ヤリニナリマスルカ、又ハ民間ノ會社ニ或ハ補助シ獎勵ヲシナケレバナラヌト云フ事ヲ申述ヘテ置イタノデアリマス、當時政府ニ於カレマシテモ、吾々ノ建議案ニ付テハ諒トセラレタノデアリマス、所ガ本案ニ依レバ、燃料廠ヲ新ニ増設サレマシテ、煉炭事業ノ統一ニ石油ノ事業ヲ加ヘラレマシテ、洵ニ結構デアリマス、併ナガラ私ハ是ダケデハドウモ安心ガ出來ヌト思フノデアリマス、殊ニ四十三議會ノ當時問題ニ

ナテ居リマス油田ノ開發ニ付キマシテハ、何等ノ計上ガナイヤウニ見エマスガ、政府ハ油田ノ開發ノ補助獎勵ニ就テハ、ドウ云フ御考ヲ持テ居ラレマスカ、又新ニ豫算ノ追加デモ出サレマシテ、其等ニ對スル諸計畫ガアリマスカ、大體ニ於テ此點ヲ御尋致シマス

○志佐政府委員 唯今ノ御質問ハ洵ニ御尤ノ質問ト考ヘマス、當局トシテモ燃料殊ニ石油ノ政策ニ就テハ、十分慎重ナル考慮ヲ拂ヒマシテ、最善ノ目的ヲ達シタイト云フ考デアリマス、唯今御尋ノ油田開發ノ補助ト云フヤウナ事ニ付キマシテ、政府ノ見込如何ト云フ御尋ガゴザイマシタガ、是ハ遺憾ナガラ私ハ政府ヲ代表シテ今此ニ御答ヲスルコトハ出來マセヌ、是ハ海軍計リデアリマセヌ、農商務省ニモ關係スル事デアリマスカラ、御質問ノ趣意ハ能ク歸リマシテ大臣ニモ申上ゲテ、農商務省ト關聯スル點ニ付テハ、話合ノ上、適當ノ時機ニ御答スルト云フコトニ御含テ願ヒタイト思ヒマス

○高野毅君 私人印刷局ノ方ニ付テハ質問ハアリマセヌ、燃料廠ニ付テニ三ノ質問ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、燃料廠ト云フモノデ新ニ置カレテ、海軍ガ新ニ製油ヲ始メ、其處ニ於テ一方ハ海軍重油ノ圓滑ヲ計リ、一方ハソレヲ以テ内地ノ製品不足ヲ補充スルト云フヤウナ事ノ立案デアリマス、ソレニ付テ政府當局ニ御尋シタイトハ、第一原油ノ輸入契約、是ハ「ボルネオ」及「米國」ヨリ輸入サレマスガ、其輸入契約ノ内容ハ、年々ト位、前途何年位契約シタカ、是ハ私ガ最も不安ヲ置クノハ、何故カト云フト、原油ヲ輸入スルト於テ、英米ノ何レカヨリ輸入ヲスル、兩方カラ輸入ヲスルトスレバ、兩方ノ政府ノ諒解ヲ得ヌト、甚ダ困ル事情ガ生ズルト思フ、如何トナレバ亞米利加ノ如キモ大分輸出ノ禁止ヲ主張シテ居ル、サウ云フ有様デアリマシテ、前途如何ナル契約ニ依リテ之ヲ安心スル事ガ出來ルカ、若シ原油ガ契約シテアツテモ、或ル方法ヲ以テソレヲ輸出スルコトガ出來ナカッタ時ハ、其建立サレタ製油所ト云フモノハ、何ニモナラナイコトナル、モウ一ツ、唯今ノ所デハ一箇年ノ製油量ハ十萬噸、一箇月一萬噸、一日約二百石以上ノ製油量デアアル、是ハ段々進ムトスレバ免角デアリマスガ、現在ノ製油能力ト云フモノハ、最も經濟的ノモノハ一日六百石カラ千石ト云フノガ經濟的デアアル、一箇月約三千噸ト云フ位ガ經濟的の製油能力ト云フコトガ外國デモ言ハレテ居リマス、ソレヲ進シテ段々大キクシテ行クト云フコトハ、甚ダ宜イ事ニ違ヒナイカモ知レヌノデスケレドモ、經濟的の製油能力ト云フ見地カラ立テ設備ヲシタラドウデアリマスカ、ソレカラ製油ヲシテ、ソレヲ陸海軍タテニ使フト云フ目的デアルカ、若シ之ヲシテ一般市場ニ賣出ヲスルトスルト、内地ノ民業ヲ壓迫スル

コトニナリハシナイカト云フコトヲ御尋致シタイト、其次ニ海軍ノ燃料廠ニ於ケル現在ノ石炭及石油ノ鑛區ハ、ドウ云フ坪數ト採掘量ヲ持テ居リマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒマス、豫算ニ於テ年々四百萬圓ト記憶シテ居リマスガ、外國カラ原油ヲ買フト云フコトニ付テ出テ居ルヤウデアリマスガ、其モノ、燃料廠ニ繰入關係ハ如何ニナテ居リマスカ、ソレヲ承リタイト、ソレカラ隨テ此利益等ノ關係ハアリマスガ、資本ノ銷却ハドウ云フ關係ヲ以テ銷却スルカ、ソレダケヲ第一ニ伺ヒタイトデアリマス

○志佐政府委員 唯今御尋ノ原油輸入ノ契約並ニ其油田ノ坪數及採掘量ニ就キマシテ、此方ニ書類ヲ持合ハセマセヌカラ、書類ニ依リテ後程御説明モ致シ、且ツ其書類ヲ御手許ニ差上ゲルコトニ致シマセウ、ソレカラ此「ボルネオ」其他亞米利加等ヨリ原油ヲ得ルト云フケレドモ、極メテ不安デハナイカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ御尤デゴザイマス、遠キ將來ニ互リマシテハ、如何トモ此方デ御答出來マセヌガ、自今ノ狀況ニ於キマシテハ、ソレノ輸入ノ手續ニ就キマシテハ、十分ノ諒解ヲ得マシテ、實行上何等不便不都合ヲ認メテ居リマセヌ、ソレカラ製油ヲ一般ニ供給スルト民業ヲ壓迫スルト云フヤウナル嫌ガナイカト云フ御尋ノヤウデアリマシタガ、燃料廠ニ於テ製造シマスル重油、輕油トモ、全部海軍ノ用途ニ供スル物デアリマスカラ、海軍以外ノ用途ニ供スル餘力モナシ、其考モ持テ居リマセヌ、ソレカラ四百萬圓ノ原油買入ノ事ニ付テ御尋ネデシタガ、彼ノ四百萬圓ト仰シタルノハ豫算外國庫ノ負擔トシテ議會ノ協賛ヲ經テ居リマス彼ノ四百萬圓ノ事デスナ

○高野毅君 左様デス

○志佐政府委員 彼ノ四百萬圓ハ全然一般會計ノ方ニ經營費ノ科目ヲ以テ購入シマスル所ノ製油ノアレハ買入デゴザイマスカラ、此燃料廠ノ製造事業トハ全ク關係ハ持ッテ居リマセヌノデス、唯今御尋ノ資本ノ銷却ト云フ事ニ付テハドウ云フ御趣意ノ御尋デアリマシタカ、甚ダ恐縮デスケレドモモウ一度……

○高野毅君 利益ダケハ年々七十萬圓ナラ七十萬圓トアツテ、採掘スル鑛區ノ代金ハ今ノ固定資本ト云フモノヲ漸次銷却シテ行カヌケレバ、今ノ製油事業ガ仕舞ニハ役ニ立タナクナリ、唯タ利益ダケヲ出シテシタノデハ、銷却ト云フモノガナケレバ計算ニナラヌ

○志佐政府委員 資本ノ銷却ニ付テハ、十年度ノ議定ノ計算ヲ申上ゲマスル、建造物ノ補給費ガ四十七萬六千圓デアリマス、其他内譯ヲ申シマス、營繕費三十三萬圓、用地ノ買收ガ七萬五千圓、修繕費ガ六萬九千圓、ソレカラ器具機械補修費ニ要スルモノヲ百十八萬圓ト云フ計算ヲ

○志佐政府委員 資本ノ銷却ニ付テハ、十年度ノ議定ノ計算ヲ申上ゲマスル、建造物ノ補給費ガ四十七萬六千圓デアリマス、其他内譯ヲ申シマス、營繕費三十三萬圓、用地ノ買收ガ七萬五千圓、修繕費ガ六萬九千圓、ソレカラ器具機械補修費ニ要スルモノヲ百十八萬圓ト云フ計算ヲ

○志佐政府委員 資本ノ銷却ニ付テハ、十年度ノ議定ノ計算ヲ申上ゲマスル、建造物ノ補給費ガ四十七萬六千圓デアリマス、其他内譯ヲ申シマス、營繕費三十三萬圓、用地ノ買收ガ七萬五千圓、修繕費ガ六萬九千圓、ソレカラ器具機械補修費ニ要スルモノヲ百十八萬圓ト云フ計算ヲ

立テ、居リマス、其主ナルモノハ今細カク品物ノ數量ヲ舉ゲテ申上ゲマスル程ノコトデハゴザイマセヌガ、要スルニ此器具機械修補ノ爲メニ要スル費目ハチヤント數字ノ中ニ八百十八万圓ト云フモノヲ見テ居リマス、材料費ガ尙ホ千二百二十四万圓ト云フモノガ見テアリマス、ソレノ計算ニ依テ銷却ノ方法ハ考ヘテ居ル積デアリマス

○高野毅君 固定資本ト云フモノハ、所謂補修トカ或ハ材料費ト云フモノノデナイ、固定資本ヲ入レテ海軍ガ一ツ仕事ヲ始メルト云フコトナラバ、銷却ト云フコトガ必要ダラウト思フ、其考ヲ一ツ承リタイ

○志佐政府委員 此特別會計ノ計算カラ申シマシテモ、會社ノ經營トハ違ヒマシテ、此銷却ト云フコトニ付テハ別ニ計算ガ立ッテ居リマセヌ、若シ要スルナラバ新シク増築スルモノハ一般會計カラ更ニ補充ヲ受ケマスルシ、作業會計資本ニ付テハ特別ニ銷却ノ方法ヲ執ルガ如キ計數ヲ計算致シマセヌノデス

○高野毅君 次ニモウ一ツ御尋致シマス、現在海軍省ガ重油ノ鑛區以外ニ尙ホ有望ト見ルモノアレバ、買入レルト云フ御考ガアリマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒマス

○志佐政府委員 海軍當局ハ其考ヲ持ッテ居リマス

○高野毅君 承知致シマシタ

○田中善立君 先刻木下君カラノ御質問ノ第一ノ御答辯ガ一寸分ラヌデシタカラ——此計畫ハ唯ニ平時ノ用ヲ足スモノデアッテ、一朝事アル時ニ於テハ、此計畫デハ何等備フルコトハ出來ヌノデアリマスカ、或ハ是デ矢張平時ノ用ヲ足シタ外ニ、若干貯藏シテ行クコトガ出來ルコトニナッテ居リマスカ、ソレヲ一ツ伺ッテ置キマス

○志佐政府委員 此計畫ニ於キマシテ、平時戰時共差支ナイヤウナ計畫ヲ立テ、居リマス、併ナガラ戰時ト云フコトニナリマフルト、其狀態ニ依テ今日ヨリ豫想スルコトノ出來ナイ狀態モアリマスカラ、全然此燃料廠ノ經營ニ依テ間ニ合フト云フコトノ覺悟ハ十分出來兼ネマスカラ、成ベク此燃料廠ノ經營ニ重キヲ置イテ、サウシテ他ニ國外ヨリ重油ヲ輸入シテ、貯藏準備ノ方法モ他ノ一方ニハ考ヲ實行シツツアリマスカラ、先ヅ以テ此計畫ヲ實行シテ參リマスレバ、平時戰時兩方ニ於テ差支ナイ見込デアリマス

○田中善立君 此運轉資本ニ付テ段々御説明モアリマシタガ、五十三万圓ヲ増加スルトカ云フコトデアリマスガ、モウ一應御説明ヲ願ヒタイ

○佐々木政府委員 先程申上ゲマシタノハ、八年度ノ年度末ニ於ケル數字ヲ申上ゲタノデ、九年度ノ年度末ニ於テ、材料運轉資本金其他生産品等ノ價格ト、ソレカラソレニ對シマスル現在ノ資本ノ四十七万圓ト云フモノヲ對照シテ見ル

ト、六十一万圓ノ不足ヲ生ズル、六十一万圓ノ不足ノ中、支出未済ガ七万圓程アリマス、差引五十三万圓不足ヲ生ズル、此五十三万圓ヲ此度増加スルト云フコトニナルノデアリマス

○木下成太郎君 少シ私ノ質問ハ長クナリマスガ、最早時間ガ來テ居リマスノデ——私ノ尋ネント欲スル點ハ、唯今御説明ヲ得マシテ、益、質問ヲ試ミテ見タイノデアリマス、願クバ海軍大臣ノ御出席ヲ得マシテ、サウシテ御答辯ヲ得マシタガ、却テ是ハ早分リナリハセヌカト思ヒマス、唯今ノ御説明デ了解ヲ得マシタ點モアリマスルシ、又了解シ得ナイ點モアリマスカラ、唯今ノ政府委員カラ説明ヲ承リマシタ以外ニ於テ、大臣カラ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、來ルベキ委員會ニ於テハ、ドウゾ大臣ノ御出席ヲ御願ヒシテ置キマス

○委員長(龍野周一郎君) 時間モ參リマシタカラ、今日ハ是デ散會致シマシテ、皆様ノ御都合ハ如何デアリマスカ、明日繼續シテ開キタイト思ヒマスガ……

(「ドウカ本會議ノ日ニシテ頂キタイ」ト呼フ者アリ)

○委員長(龍野周一郎君) ソレデ明後日ノ正十時ニ始メルコトニシテ、今日ハ是デ散會致シマス

午後零時十一分散會

大正十年二月十七日印刷

大正十年二月十八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局